

スタート

新入生のための 生徒理解調査

著者に
聞いた

導入に向けてのアドバイス

『スタート 新入生のための生徒理解調査』を活用するメリットとは？

1 生徒理解の〈視点を増やす〉

先生が培ってこられた生徒理解の視点は、その経験から一定の方向性をもっているものです。その視点に『スタート』の結果を加えることで、これまで先生の視点にはなかった新たな見方が加わり、生徒の見える部分も増えることにつながります。

先生の視点

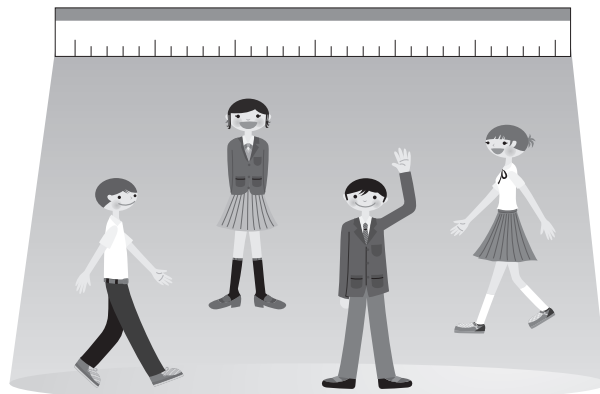
『スタート』を加えた視点



2 〈共通のものさし〉で生徒理解を行う

『スタート』は、一人ひとりの生徒を共通のものさしでとらえるため、共通の視点・尺度から長所・注意点を浮き彫りにできます。

『スタート』のものさしは、「中学3年の生活の様子」「現在の生活の様子」「進路に関する意識」「悩み」という調査に加え、「学校適応基礎力」と「興味」という2つのスケールで構成されており、多面的な生徒理解が可能になります。

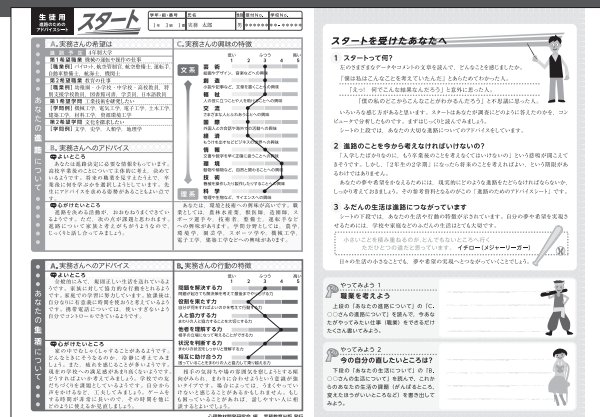


保護者への理解をどう図る？ 導入目的の説明

生徒用「進路のためのアドバイスシート」は、その名称のとおり、「進路」に関する内容を中心とした結果シートです。保護者にとっては、生徒理解という側面よりも、進路に関する調査を行うという側面を重視したほうが受け入れられやすいと思います。

三者面談では、教師用「生徒理解シート」で気になった点を保護者に確認したり、生徒用シートを用いながら、生徒のよいところを積極的に見つけたりするとよいでしょう。

(裏面へ)



教師用「生徒理解シート」をどう活かす？

教師用「生徒理解シート」には、生徒一人ひとりとじっくり面談をしないとわからないような貴重な情報が、多く含まれています。次のようなポイントを押さえて、指導にお役立ていただけます。

注目ポイント！

D欄・E欄・F欄でマークが多い生徒は注意

マークは、問題があって注意したほうがよいと想定している回答です。マークが多い生徒は、なんらかの問題を抱えていることが多く、早めのケアが必要な生徒といえるでしょう。

注目ポイント！

G欄は生徒の悩みがわかる

悩み調査で○印をつける数は、平均すると1個程度です。3個以上の○印をつけている場合は、なんらかのSOSのサインかもしれません。また、G欄の右端にある全国出現率が少ない割合のものに○印をつけている場合も注意が必要です。

教師用

スタート

新入生の生徒理解シート

生徒理解シート

学年・組・番 名前 性別 交付No. 学校No.

1年 3組 1番 実務 一夫 男 ****

A. 実務さんへの今後のサポート

学校適応基礎力にやや低い側面があります。学級やグループ活動で、自分の役割を把握できないことがあります。さらに、だれか助け合う関係をつくることはやや苦手です。悩み調査から多くで悩んでいることが明らかになりました。中学校では、本人を理解してくれる先生と出会えなかったようです。さらに、友人関係で嫌な思いを経験しています。現在は、本校には不本意入学だった可能性があります。

B. 実務さんの長所

長所については、D欄・E欄・F欄の★の項目とH欄・I欄から判断しました。

D. 中学3年からの生活

比較的に、穏やかで、安定した人間関係を維持した。中学時代を過ごしていた。学校での学習を妨害する要因は少なく、安定しており、過激なことをせず、ルールを守るタイプです。

E. 現在の生活

とても規則正しい生活をし、安定した食生活と十分な睡眠がとれています。家族からはいないコミュニケーションを受け、家でしっかりと勉強をして、時間を有効に使っています。

F. 進路希望

進路希望は固まっています。家族は進路決定についての検討をいっしょにするなど十分な支援をしており、本人が主体的に考えています。今後の方向性についてもイメージできています。

H.1のスキルから

学校適応基礎力では関係配慮、興味では環境や技術の両方の面がバランスよく伸びているのが特徴です。今後は、より一層のステップアップを支援してあげたい。

C. 実務さんの注意点

注意点については、D欄・E欄・F欄の★の項目とH欄・I欄から判断しました。

D. 中学3年からの生活

中学時代は比較的安定として、何らかの原因で勉強が手につかなくなった。授業以外では勉強をしなかった。家族は自分のことを理解してくれていないように感じていた。というポイントをあげています。

E. 現在の生活

現在の生活としては、今の学校への入学が不本意なものであったと感じており、日常生活では疲労感が残ってしまう日が多く、平日でもついついゲームに没頭してしまっている時間があることがあり、という点に注意が必要です。

F. 進路希望

進路決定については、本人と家族との間に考え、方向性についての差があり周囲の賛同はない。高校から進路についてあまり調べることがないため情報量が少なく、先生からの助言の必要性をあまり感じていない。という点に注意が必要です。

H.2のスキルから

学校適応基礎力では関係配慮、興味では環境や技術など比較的高く、特に大きな注意点は見当たらない。いずれの検査も高いレベルに改善されるよう希望しています。現状に満足することはないよう働きかけてください。

D. 中学3年の生活についての調査結果

1. 気持ちをわかってもらえていた先生は、わからない
2. 学校やクラスの情報を、等閑にすることもあった
3. 自分のクラスについて、楽しかったこともある
4. 休み休み、たいしては特定の友人と過ごしていた
5. 学校で、いじめられたことはなかった
6. 学校の先生と関係よく、嫌な思いをしたことは、よくあった
7. 友だちがなかったことは、なかった
8. クラスでまじめに勉強する人は、多かった
9. 成績の落ち込みや勉強への集中不足は、何回もあった
10. 学業の進捗は、気が付いたら遅れていた
11. 授業の進捗は、遅れていた
12. 授業の進捗は、遅れていた
13. 授業の進捗は、遅れていた
14. 授業の進捗は、遅れていた
15. 授業の進捗は、遅れていた
16. 授業の進捗は、遅れていた

E. 現在の生活についての調査結果

1. 1日1日の起床時間は、7時ごろ
2. 1日1日の睡眠時間は、7時間程度
3. 1日1日の食事は、食べる量が多い
4. 1日1日の夕食に家族の人とそろって食べることは、多い
5. 家族は、自宅で何かをする
6. 家族は、自宅で何かをする
7. 家族は、自宅で何かをする
8. 家族は、自宅で何かをする
9. 家族は、自宅で何かをする
10. 家族は、自宅で何かをする
11. 家族は、自宅で何かをする
12. 家族は、自宅で何かをする
13. 家族は、自宅で何かをする
14. 家族は、自宅で何かをする
15. 家族は、自宅で何かをする
16. 家族は、自宅で何かをする

F. 進路についての調査結果

1. 卒業後の希望進路は、4年制大学への進学
2. 就きたい職業の第1希望は、IT系の開発や操作性の仕事
3. 就きたい職業の第2希望は、IT系の開発や操作性の仕事
4. 就きたい職業の第3希望は、IT系の開発や操作性の仕事
5. 就きたい職業の第4希望は、IT系の開発や操作性の仕事
6. 就きたい職業の第5希望は、IT系の開発や操作性の仕事
7. 就きたい職業の第6希望は、IT系の開発や操作性の仕事
8. 就きたい職業の第7希望は、IT系の開発や操作性の仕事
9. 就きたい職業の第8希望は、IT系の開発や操作性の仕事
10. 就きたい職業の第9希望は、IT系の開発や操作性の仕事
11. 就きたい職業の第10希望は、IT系の開発や操作性の仕事
12. 就きたい職業の第11希望は、IT系の開発や操作性の仕事
13. 就きたい職業の第12希望は、IT系の開発や操作性の仕事
14. 就きたい職業の第13希望は、IT系の開発や操作性の仕事
15. 就きたい職業の第14希望は、IT系の開発や操作性の仕事
16. 就きたい職業の第15希望は、IT系の開発や操作性の仕事

G. 実務さんの悩み調査の結果と注意点

1. 自分が悩んでいることは、友達に話している
2. 自分が悩んでいることは、友達に話している
3. 自分が悩んでいることは、友達に話している
4. 自分が悩んでいることは、友達に話している
5. 自分が悩んでいることは、友達に話している
6. 自分が悩んでいることは、友達に話している
7. 自分が悩んでいることは、友達に話している
8. 自分が悩んでいることは、友達に話している
9. 自分が悩んでいることは、友達に話している
10. 自分が悩んでいることは、友達に話している
11. 自分が悩んでいることは、友達に話している
12. 自分が悩んでいることは、友達に話している
13. 自分が悩んでいることは、友達に話している
14. 自分が悩んでいることは、友達に話している
15. 自分が悩んでいることは、友達に話している
16. 自分が悩んでいることは、友達に話している

H. 実務さんの学校適応基礎力スキル

自己理解 [問題解決] 低い 1 2 3 4 5
他者理解 [役割理解] 低い 1 2 3 4 5
状況理解 [状況理解] 低い 1 2 3 4 5
相互理解 [相互理解] 低い 1 2 3 4 5

I. 実務さんの興味・関心

低い 1 2 3 4 5

注目ポイント！

H欄は学校への適応力がわかる。極端な傾向には注意

学校適応基礎力は、学校生活に適応していくうえで基礎となるスキルを測定しています。すべての特性が低くなっている場合は、コミュニケーション能力の低さの表れといえます。一方、すべての特性が高いのは望ましい傾向ですが、まれにがんばりすぎという過剰適応の可能性もあります。低い・高いが極端な傾向にある生徒には積極的なフォローが必要でしょう。

よく寄せられる質問

こんな判定結果が出たらどうする!?

①興味スケールがすべて低い生徒への対応は？

興味は「やる気の原動力」となるものです。興味があれば、多少の困難があっても、目標を設けたり、目標に向かって進んでいけたりするはず。すべてが低い場合は、進学にせよ就職にせよ、アドバイスに困るということがあると思います。そのような場合は、まずは職業希望・学問希望で「未定」以外のものがあるかどうかを確認してみてください。「未定」以外のものがある場合は、そこから興味を引き出していくことができます。職業希望・学問希望も「未定」で興味もすべてが低い場合は、『スタート』では測定していないものに興味をもっている可能性も考えられます。面談などを行って、生徒の気持ちを確認していくことが大切でしょう。

②やりっぱなしにならないようにする活用方法は？

結果シートを返却するだけではもったいないため、何か活用したいと考えていただくのは当然のことだと思います。生徒に結果の振り返りをさせたいということであれば、「進路のためのアドバイスシート」の右側には、シートの見方の解説とともに、結果の振り返りができる簡単なワークがついていますので、ぜひ取り組ませてください。1時間程度の時間を確保できるようにしたら、「教師用マニュアル」で紹介している展開例1〈スタート生徒用「進路のためのアドバイスシート」を授業で活用する〉を実践してみてください。